

## 代表質問 (要旨)

代表質問は、市長の新年度施政方針に対し、会派を代表して各1人が質問するものです。

新緑風会

山中 智博 議員

### 令和8年度施政方針について

(質問) ①小中学校のトイレの洋式化率が県内でも低く、児童生徒などから改善を求める声が多い。今年度の整備方針は。②誰もが必要な医療を受けられる体制確保のため、高度医療機器の整備支援方針は。③高齢者や障がい者の方から、ごみ出しの負担の声を聞く。新たに始まる「ふれあい収集」の内容は。

(答弁) ①トイレ改修は小学校6校、中学校2校で、改修箇所は校舎内が5箇所、屋内運動場が5箇所、屋外が1箇所の予定。今後も着実にトイレ洋式化を実施する。②令和7年度は放射線治療設備の導入支援を行い、1月に運用開始された。令和8年度は手術支援ロボット導入を支援し、医療提供体制の強化を図る。③要介護3以上、障害者手帳2級以上、療育手帳Aの方を対象に、市直営で週1回戸別収集を行う。連続して排出がない場合は福祉部局へ情報提供し、見守りにつなげる。



市民の声

中西 大輔 議員

### 令和8年度施政方針について

(質問) 経常的支出を抑制する行財政改革と経常的収入の増加策について具体的な考えが分からない。固定費の抜本的な見直しなど、持続可能な財政運営と自治体経営についての考えは。市内全体での学校施設の改修や改築、適正配置点について令和8年度にどう取り組むのか。多文化共生を否定しないが、共生には本市と日本文

化の尊重があってこそで、毅然とした部分が求められる時代であるが、どのような考えか。

(答弁) 予算編成に当たり経常収支比率の改善を意識し、財源確保と経費見直しに徹底して取り組んだ。財源確保にふるさと納税の増収に努め、行政サービスの見直し、DXの推進により経常的経費削減に取り組む。学校再編は技術監理部など市長部局と教育委員会事務局が連携して取り組む。外国人市民を共に地域を創る生活者として定住を促す施策を推進し、多文化共生社会を実現していく。



自由民主党  
鈴鹿市議団

森 雅之 議員

### 令和8年度施政方針について

(質問) 小学校での水泳授業の民間委託では、一定の成果が見られたことから、令和8年度は実施対象校を5校から13校に拡大するとあるが、早期に全ての小学校で実施すべきと考えるがどうか。

(答弁) 令和4年度から実施してきた水泳授業の外部委託の利点として、こどもたちは、時期や

天候に左右されることなく安定した環境の下で、水泳授業を受けることができ、専門性を有する外部インストラクターの指導により泳力の向上を図れる。こどもと保護者を対象に行ったアンケート調査でも、実施について肯定的な意見が多く、令和8年度以降も民間委託による水泳授業の継続を強く求める声が多数寄せられている。学校プール施設の維持保全に係る財政負担などを勘案し、水泳授業を外部委託する学校を順次拡大できるよう検討していく。



公明党

藤浪 清司 議員

### 令和8年度施政方針について

(質問) 「鈴鹿市こども条例」が掲げる「こどもの権利を守り、社会全体でこどもの健やかな成長を支えあう社会の実現」に向けた取り組みをさらに加速する必要がある。本市のこども政策を総合的かつ計画的に推進するための指針となる「鈴鹿市こども計画」の策定に当たって、どのように、こどもや若者の意見を聴き取り計

画・施策に反映させるのか尋ねる。

(答弁) 計画の策定に当たっては、当事者であるこどもや若者の意見を丁寧に聴き取り、計画に反映させることが重要であると考えている。意見聴取の方法は、小・中学校のクロームブックの活用を含めたアンケート調査の実施に加え、市内高等教育機関との連携によるワークショップの開催や、鈴鹿市子ども・子育て会議の委員に市民公募による若者委員を新たに設けるなど、複数の手法により聴き取った意見を計画へ反映していく。

